

13

千代田区景観まちづくり重要物件

文房堂ビル

指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 神田神保町一丁目 21 番地 1

設計者 手塚亀太郎（改築：久保田俊彦）

竣工
1922（大正 11）年竣工
1990（平成 2）年改築文化財等
指定状況

-



▲文房堂のファサード

歴史・文化的特徴

文房堂は、1887（明治 20）年創業の老舗の画材店です。

1922（大正 11）年に竣工し、翌年に関東大震災で焼失してしまいましたが、当時としては数少ない RC 造だったために倒壊を免れました。また、第二次世界大戦の戦禍をもくぐりぬけました。

1990（平成 2）年、すずらん通り側のファサードのみが残され、建物本体は建替えられました。

「第 2 回千代田区景観賞 ちよだ景観界限賞（平成 5 年度）」を受賞しています。

意匠・構造の特徴

保存された外壁は、表面に筋状の引っかき傷を沢山付けて焼き上げられ、独特の趣のある重厚感を持つ「スクラッチタイル」で仕上げられています。1 階上部やアーチ、2 階窓台、2 階窓上のライオンの飾り、3 階アーチ窓のキーストーン、最上部パラペットなどに、テラコッタの装飾が使われ、ロマネスク風の趣味の中に、アールデコ調が取り入れられており、重量感のあるファサードとなっています。

建築物全体像▶



周辺景観との関係

すずらん通りは、関東大震災までこの地域のメインストリートで、今も商店街には看板建築が数多く残っています。文房堂ビルは、すずらん通りの入口にあって、一際目を引き、商店街の歴史と誇りを物語っています。